

【第 6 回アフリカ開発会議サイドイベント】

森林ガバナンス改善イニシアティブ: JICA-JAXA 熱帯林早期警戒システム (JJ-FAST)

国際協力機構 (JICA) は、8月27日、ケニア共和国ナイロビ市内のSarova Panafric Hotelにて、第6回アフリカ開発会議サイドイベントとして、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) との共催により「森林ガバナンス改善イニシアティブ: JICA-JAXA 熱帯林早期警戒システム (JJ-FAST)」を開催しました。

このサイドイベントでは、JICAとJAXAの連携の下、2015年12月の気候変動枠組条約 (UNFCCC) COP21で発表した「森林ガバナンス改善イニシアティブ」の紹介、違法伐採による森林減少抑制施策やコンセッション (伐採権) 管理への活用が期待される「JICA-JAXA 熱帯林早期警戒システム (略称: JJ-FAST)」のデモンストレーションなどが行われました。

開発途上国における資源消費の増大や大規模な開発は、森林減少や土壌劣化、生物種の絶滅など自然環境の破壊をもたらしています。特に、熱帯林は気候変動への影響が大きいことから、その保全は全世界において喫緊の課題です。JICAは2008年以降、アジア、中南米、アフリカにおいて、衛星データを活用した森林資源管理のための支援を行っています。衛星を活用した熱帯林モニタリングのニーズは増加する一方、衛星解析システムの導入及び運用に関する費用の増大や、より効率的な事業実施が課題となっています。そこで、JICAとJAXAは、各国ごとに解析システムを開発するのではなく、集中的に解析する熱帯林モニタリングシステムを一か所に構築することにより、効率的に当該分野の協力の展開を図る方策を検討してきました。また、このシステムの利用を促進し、準リアルタイムの熱帯林モニタリングにより透明性を高め、持続的な森林管理のための森林ガバナンスを改善することを目的として、各国政府や関係機関との協調のもと「森林ガバナンス改善イニシアティブ」として打ち出し、国際会議等での発信や、人材育成を行っていくこととしました。

本イベントでは、加藤JICA理事が、JJ-FASTの活用により、日本の優れた衛星技術を用いて、途上国の持続的な森林管理の促進やグローバルレベルでの気候変動対策へ一層貢献していきたいとの考えを示しました。また、コンゴ民主共和国環境省のマレレ森林インベントリー・整備局長から、「地球の片肺」とも呼ばれるコンゴ盆地に位置し、広大な熱帯林を有す同国において、JJ-FASTを活用し同国が抱える熱帯林減少に関する課題へ対応していく旨の決意表明がなされました。また、東京電機大学渡邊准教授により、

JJ-FASTのデモンストレーションが行われました。

本イベントにおいて、持続的な森林管理や気候変動対策の推進のためには、他ドナーや民間セクターとも連携し、人材育成に注力することが重要である点が登壇者間で再確認されました。JJ-FASTの活用により、開発途上国の経済成長と自然資源保全が両立し、気候変動対策が促進されていくことが期待されます。

■本イベントの登壇者

- ・コンゴ民主共和国 環境・自然保護・持続開発省 セバスチャン・マレレ・ンバラ森林インベントリー・整備局長
- ・渡邊学 東京電機大学准教授
- ・加藤宏 JICA理事
- ・宍戸健一 JICA地球環境部審議役／次長

【モデレーター】

- ・ヘンリー・ボンス（国際ジャーナリスト）



加藤JICA理事より開会挨拶が、コンゴ民主共和国環境省マレレ局長より基調講演が行わ

れた。



JJ-FASTのデモンストレーションを行う東京電機大学 渡邊准教授